

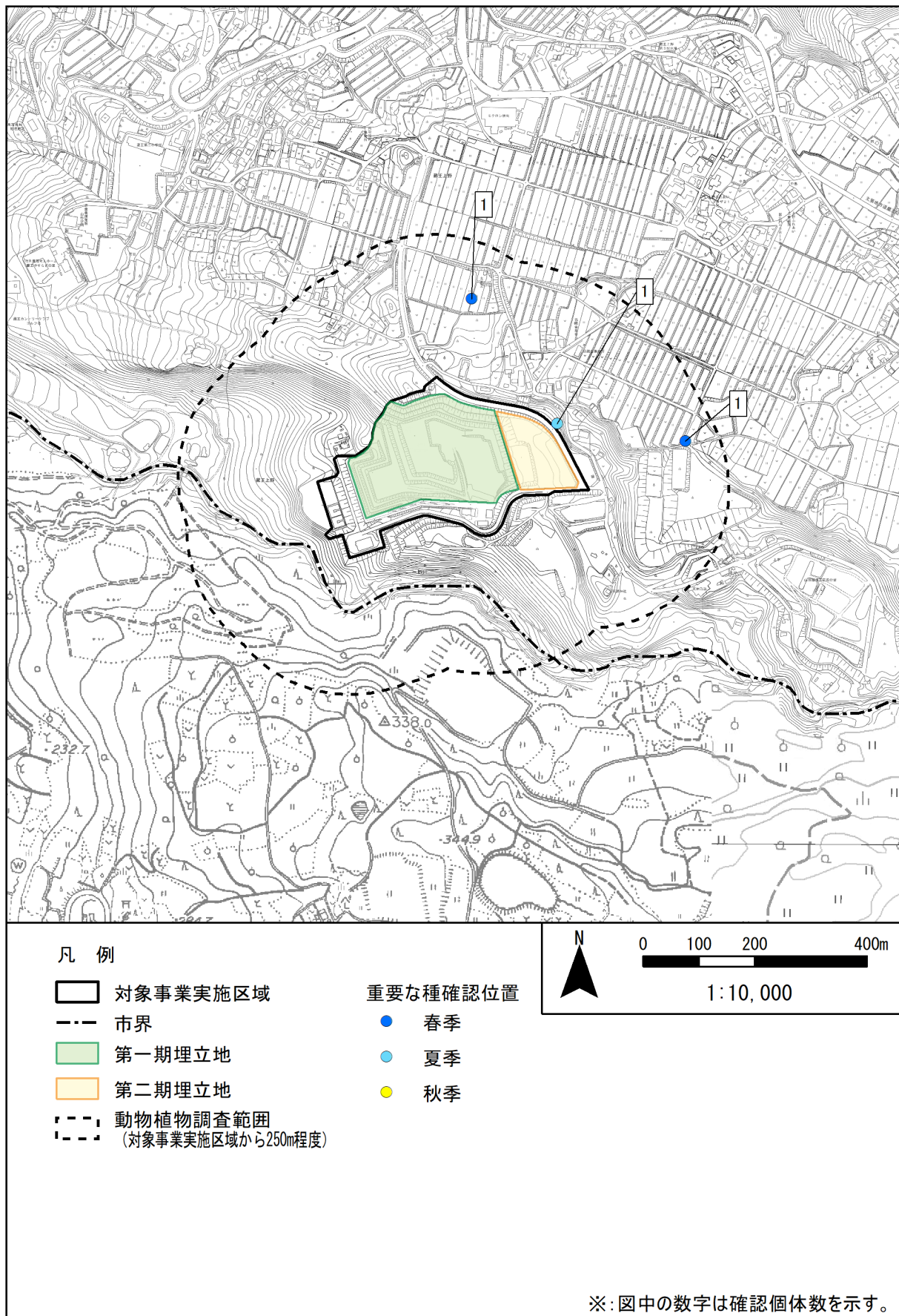


図 10.5-7(7) 重要種位置図 (コガムシ)

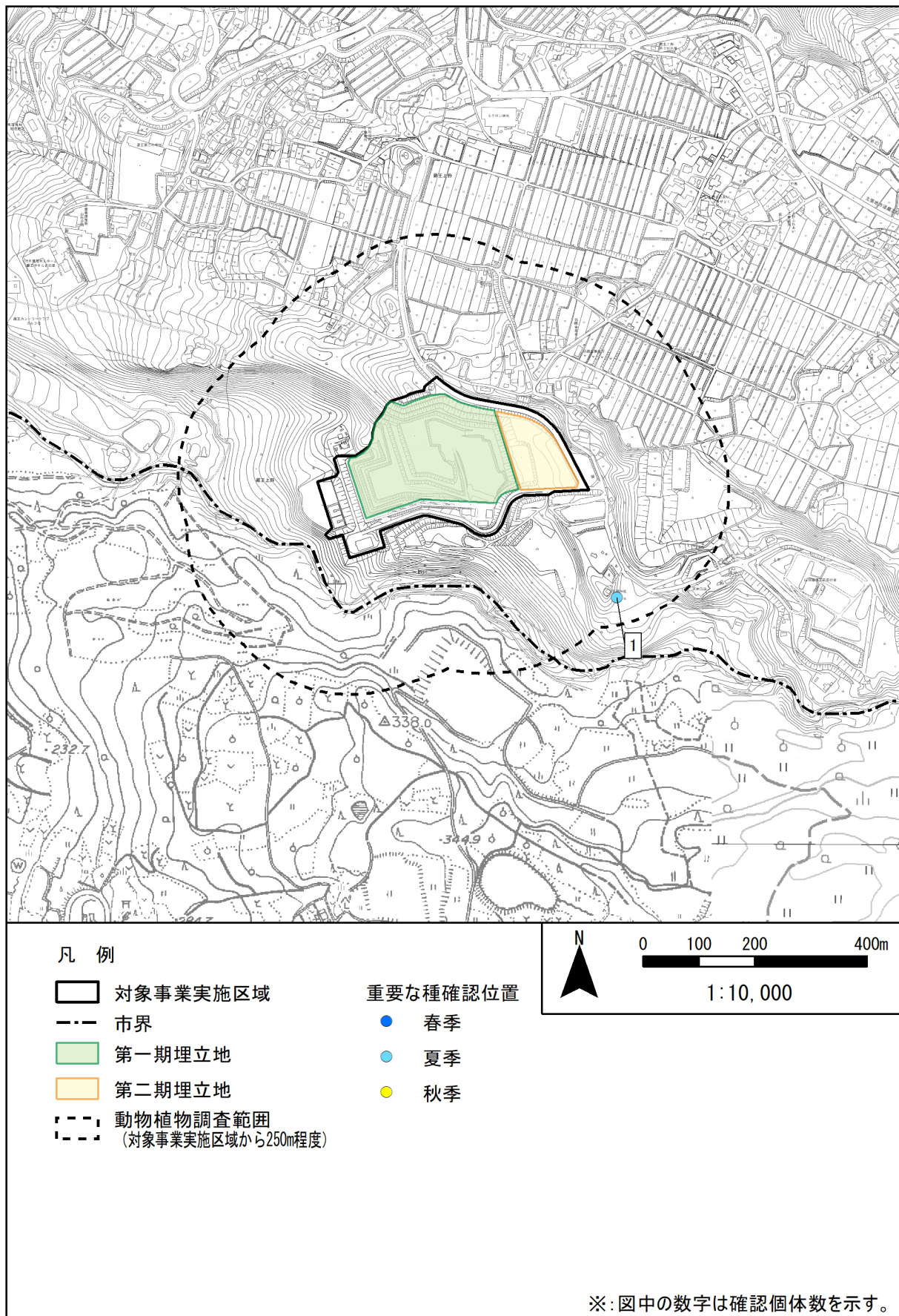


図 10.5-7(8) 重要種位置図 (モンスズメバチ)

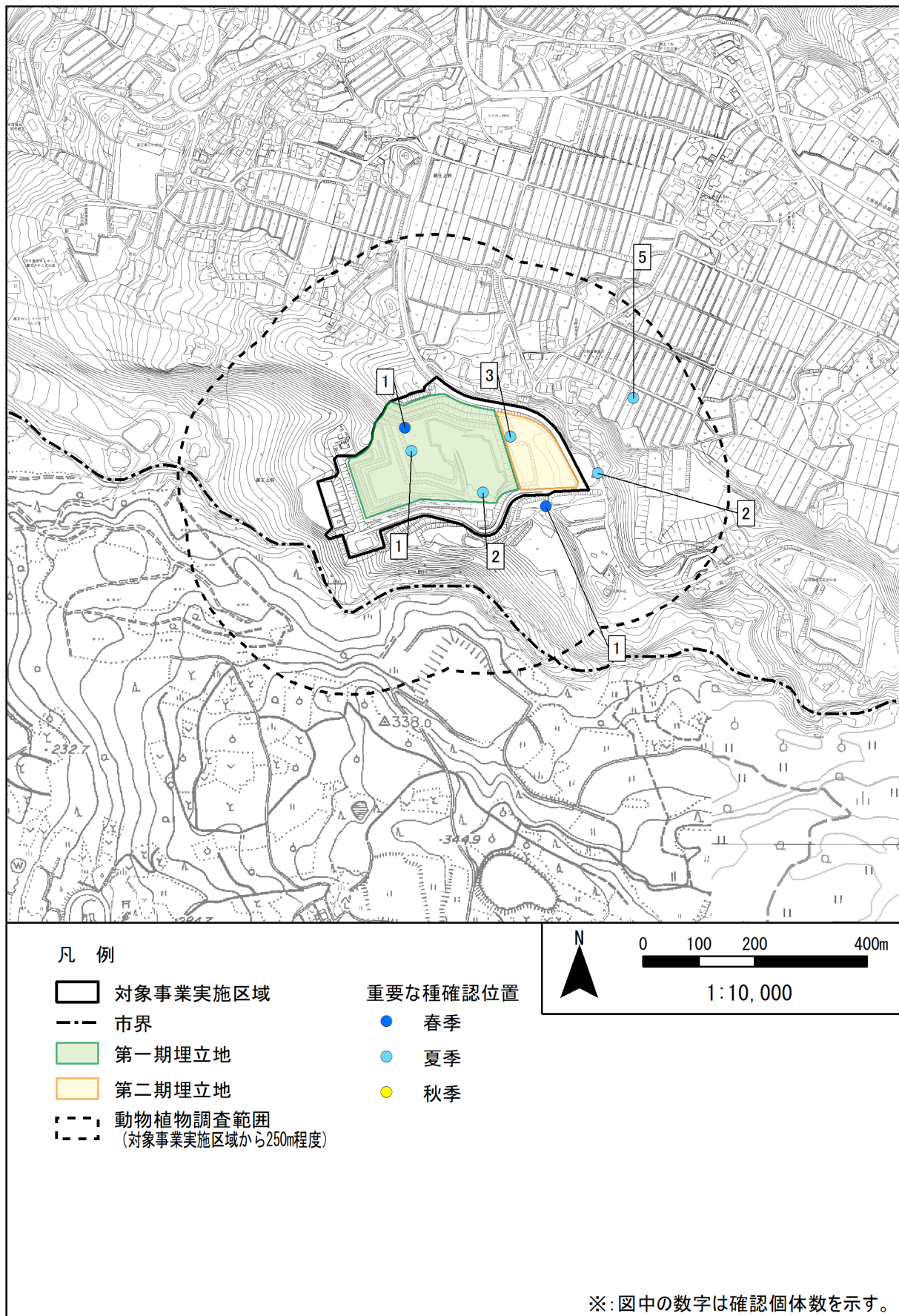


図 10.5-7(9) 重要種位置図 (クロマルハナバチ)

㌵) 魚類

確認された魚類のうち、表 10.5-27 に示すとおり 1 種が重要な種に該当し、対象事業実施区域外で確認された。

確認状況は、表 10.5-28 及び図 10.5-8 に示すとおりである。

表 10.5-27 重要な種（魚類）

No.	種名	対象事業 実施区域		重要な種の選定基準※			
		内	外	I	II	III	IV
1	ドジョウ		○			NT	
計	1 種	0 種	1 種	0 種	0 種	1 種	0 種

※：重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。

表 10.5-28 重要な種の確認状況（魚類）

No.	種名	分布・生態等	事業実施 対象地域		確認状況
			内	外	
1	ドジョウ	・日本全国に分布。国外ではアムール川水系からインドシナ半島に分布。 ・水田や農業水路、湿地帯などの流れのない泥底の環境に生息する。 ・初夏に、水田やタマリなどの一時的水域に遡上して産卵を行う。 ・腸呼吸を行うことができる。		○	春季調査時に 1 地点で 3 個体、夏季調査時に 3 地点で計 15 個体、秋季調査時に 1 地点で 8 個体を確認した。確認環境はいずれも水田脇の小規模な土水路であった。

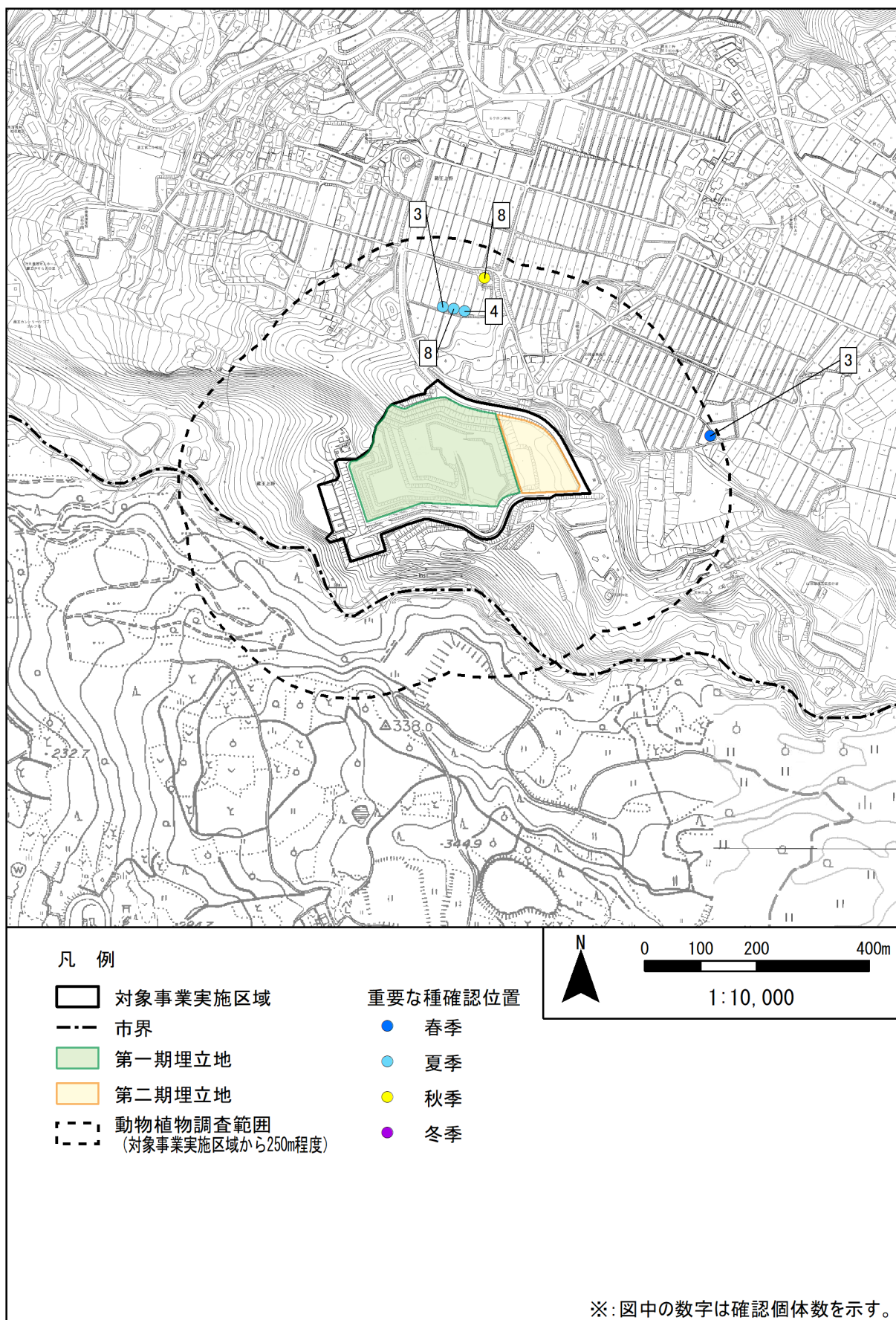


図 10.5-8 重要種位置図（ドジョウ）

㌾) 底生生物

確認された底生生物のうち、重要な種は確認されなかった。

(2) 予測

① 予測項目

工事中及び存在・供用時による、重要な動物種及び注目すべき生息地の生息環境への影響の程度や消失の有無とした。

② 予測地域

調査地域と同様の、対象事業実施区域及びその周辺 250m 程度とした。

③ 予測時期

工事中については、最終処分場設置の工事等による影響が最大となる時期とし、存在・供用時については、事業活動が定常となる時期とした。

④ 予測手法

工事中については、重要な動物種及び注目すべき生息地の生息環境と工事計画との重ね合わせにより予測し、存在・供用時については、重要な動物種及び注目すべき生息地の生息環境と事業計画との重ね合わせにより予測した。

⑤ 予測結果

工事中及び存在・供用時による重要な動物種及び注目すべき生息地の生息環境の予測結果の概要は、表 10.5-29 に示すとおりである。

なお、表中の「○」は生息環境への影響は小さく、生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測したもの、「△」は生息環境への影響があると予測したもの、「×」は生息環境への影響が大きいと予測したものを示す。

表 10.5-29(1) 重要な動物種及び注目すべき生息地の生息環境の予測結果の概要

No.	項目	種名	生息環境	影響予測	
				工事中	存在・供用時
1	哺乳類	モグラ科	樹林等	○	○
2		ヒナコウモリ科 1	樹林等	○	○
3		ヒナコウモリ科 2	樹林等	○	○
4		カモシカ	樹林等	△	○
5	一般鳥類	ヤマドリ	樹林等	○	○
6		アオバト	樹林等	○	○
7		ササゴイ	水辺等	○	○
8		コチドリ	造成地等	△	○
9		オオタカ	樹林等	猛禽類の項目で予測を実施	
10		サンショウクイ	樹林等	○	○
11		センダイムシクイ	樹林等	○	○
12		コマドリ	樹林等	○	○
13		コルリ	樹林等	○	○
14		オオルリ	樹林等	○	○
15		セグロセキレイ	河原等	○	○
16	猛禽類	ミサゴ	河川等	○	○
17		ハチクマ	樹林等	○	○
18		ハイタカ	樹林等	○	○
19		オオタカ	樹林等	○	○
20		サシバ	樹林等	○	○
21		フクロウ	樹林等	○	○

表 10.5-29(2) 重要な動物種及び注目すべき生息地の生息環境の予測結果の概要

No.	項目	種名	生息環境	影響予測	
				工事中	存在・供用時
22	爬虫類	ジムグリ	樹林等	△	○
23	両生類	トウホクサンショウウオ	樹林・細流等	○	○
24		サンショウウオ属	樹林・ため池等	○	○
25		アカハライモリ	水田・ため池等	○	○
26		トノサマガエル	水田等	○	○
27	昆虫類	ミツカドコオロギ	草地等	○	○
28		イボバッタ	草地等	○	○
29		マダラウスバカゲロウ	樹林等	○	○
30		ミヤマチャバネセセリ	草地等	○	○
31		ウラギンスジヒョウモン	草地等	○	○
32		オオムラサキ	樹林等	○	○
33		コガムシ	水田等	○	○
34		モンスズメバチ	樹林・建物等	○	○
35		クロマルハナバチ	樹林・草地等	○	○
36	魚類	ドジョウ	農業用水路等	○	○

1) 哺乳類

哺乳類の重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響の予測結果は、表 10.5-30 及び図 10.5-9 に示すとおりである。

表 10.5-30(1) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		モグラ科 ・ミズラモグラ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I：－ II：－ III：準絶滅危惧 (NT) IV：－
分布・一般生態		(ミズラモグラ) ・本州の青森県から広島県まで分布する。 ・低山帯から高山帯までの森林に生息する。 ・昆虫類、ミミズ類、ジムカデ類、ヒル類などを捕食する。 ・繁殖生態は明らかでない。
確認状況及び 主な生息環境	対象事業実施区域内	春季調査時に 1 地点で塚を確認した。確認環境は処分場内の草地であった。
	対象事業実施区域外	早春季調査時に 1 地点、春季調査時に 2 地点、夏季調査時に 4 地点、秋季調査時に 1 地点で塚と坑道を確認した。確認環境は畑や水田周辺の草地であった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 ・対象事業実施区域内の林縁部の法面部で塚が確認されているが、確認箇所は、工事の実施により改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

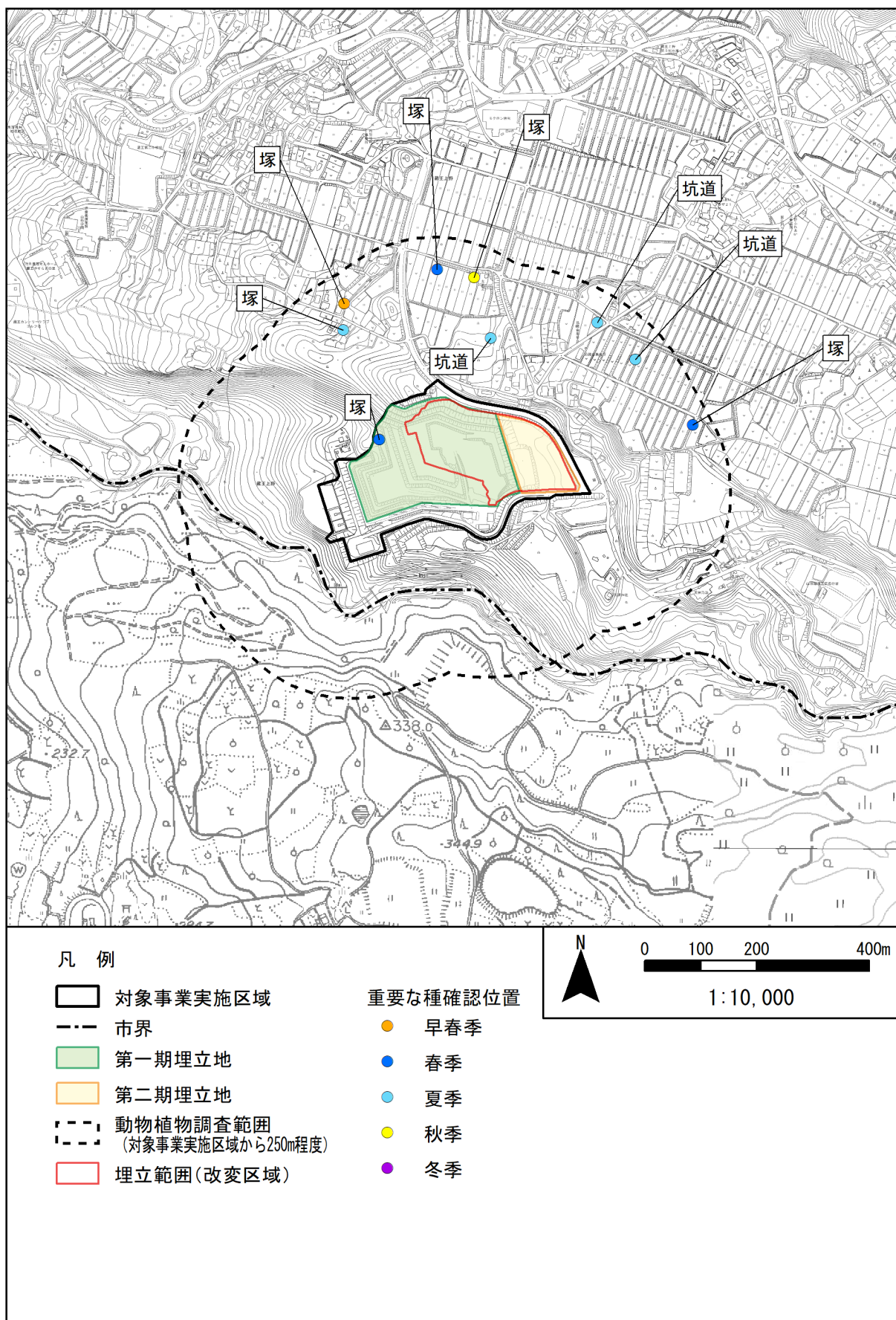


図 10.5-9(1) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（モグラ科）

表 10.5-30(2) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ヒナコウモリ科 1 ・ヤマコウモリ ・ヒナコウモリ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : ヤマコウモリの場合 : 絶滅危惧 II 類 (VU) IV : ヤマコウモリの場合 : 準絶滅危惧 (NT) ヒナコウモリの場合 : 情報不足 (DD)
分布・一般生態		(ヤマコウモリ) ・北海道、本州、四国、九州、対馬等に分布する。 ・昼間の隠れ家は樹洞であるが、橋、建物、鳥の巣箱も使用する。 ・日没前後の比較的明るい時間帯に隠れ家から飛び出し、飛翔する昆虫類を捕食する。 ・初夏に 2 仔、まれに 1 仔を出産する。 (ヒナコウモリ) ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・大木の多い地域では 1 年中集団で樹洞を休息場所としているが、家屋や海蝕洞等も繁殖の場所として利用する。 ・日没後まもなく隠れ家から飛び立ち、飛翔昆虫を捕食し、日の出前に隠れ家に戻る。 ・初夏に 2 仔を出産する。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 春季調査時に 2 地点、夏季調査時に 2 地点 でバットディテクターにより確認した。
		対象事業実施区域外 春季調査時に 1 地点、夏季調査時に 1 地点、 秋季調査時に 1 地点でバットディテクターにより確認した。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 ・工事の実施により、餌場環境として利用していると考えられる対象事業実施区域内の造成地環境が約 47.5% 改変されるが、本種の餌場環境となる草地環境や水田等の耕作地環境は周辺に広く分布している。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・土地又は工作物の存在・供用により、餌場環境として利用していると考えられる対象事業実施区域内の造成地環境の約 47.5% で埋立作業が実施されるが、本種の餌場環境となる草地環境や水田等の耕作地環境は周辺に広く分布している。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

表 10.5-30(3) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名	ヒナコウモリ科 2 ・ヒメホオヒゲコウモリ ・カグヤコウモリ ・クロホオヒゲコウモリ ・ノレンコウモリ ・モリアブラコウモリ ・ニホンウサギコウモリ ・テングコウモリ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。	I : - II : - III : クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリの場合：絶滅危惧Ⅱ類(VU) IV : ヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、ニホンウサギコウモリ、テングコウモリの場合：情報不足(DD)
分布・一般生態	(ヒメホオヒゲコウモリ) ・北海道、本州に分布する。 ・昼間の隠れ家は樹洞であるが、樹皮下や幹の割れ目、家屋、自然洞窟も利用する。 ・山地から亜高山の自然林などに生息し、樹林内で採餌する。 (カグヤコウモリ) ・北海道、本州の静岡県・石川県・岐阜県以北に分布する。 ・昼間は樹洞で休息すると思われるが、洞穴や家屋等も利用する。 ・樹林内に生息し、夜間に飛翔昆虫を捕食する。 (クロホオヒゲコウモリ) ・本州、四国、九州の低標高地に分布する。 ・黒っぽい体毛で、差し毛の先端が銀色の金属光沢をもつ。 ・昼間は樹洞で休息し、夜間に飛翔昆虫類を捕食する。 (ノレンコウモリ) ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・尾膜の後縁の尾端周辺に細毛が列生している。 ・洞穴性のコウモリだが、家屋や樹洞の利用例もある。 ・林内や林縁で小型の飛翔昆虫や造網性のクモを採餌する。 (モリアブラコウモリ) ・本州、四国に分布する。 ・天然林に生息し、昼間は樹洞で休息すると考えられている。 ・夜に飛翔する昆虫類を捕食する。 (ニホンウサギコウモリ) ・北海道、本州（中国地方を除く）、四国に分布する。 ・特徴的な長い耳介を持つ。 ・昼間は樹洞で休息すると思われるが、洞穴や家屋等も利用する。 ・夜間に飛翔昆虫を捕食する。 (テングコウモリ) ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・鼻孔が管状で左右に突出し、背面に光沢を持つ差し毛を含む。 ・昼間の隠れ家は樹洞であるが、自然洞窟、家屋、橋梁など様々な場所を利用する。

表 10.5-30(4) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ヒナコウモリ科 2 ・ヒメホオヒゲコウモリ ・カグヤコウモリ ・クロホオヒゲコウモリ ・ノレンコウモリ ・モリアブラコウモリ ・ニホンウサギコウモリ ・テングコウモリ	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	春季調査時に 4 地点、夏季調査時に 1 地点でバットディテクターにより確認した。
		対象事業実施区域外	春季調査時に 4 地点、夏季調査時に 4 地点でバットディテクターにより確認した。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 ・工事の実施により、餌場環境として利用していると考えられる対象事業実施区域内の造成地環境が約 47.5%改変されるが、本種の餌場環境となる草地環境や水田等の耕作地環境は周辺に広く分布している。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・土地又は工作物の存在・供用により、餌場環境として利用していると考えられる対象事業実施区域内の造成地環境の約 47.5%で埋立作業が実施されるが、本種の餌場環境となる草地環境や水田等の耕作地環境は周辺に広く分布している。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

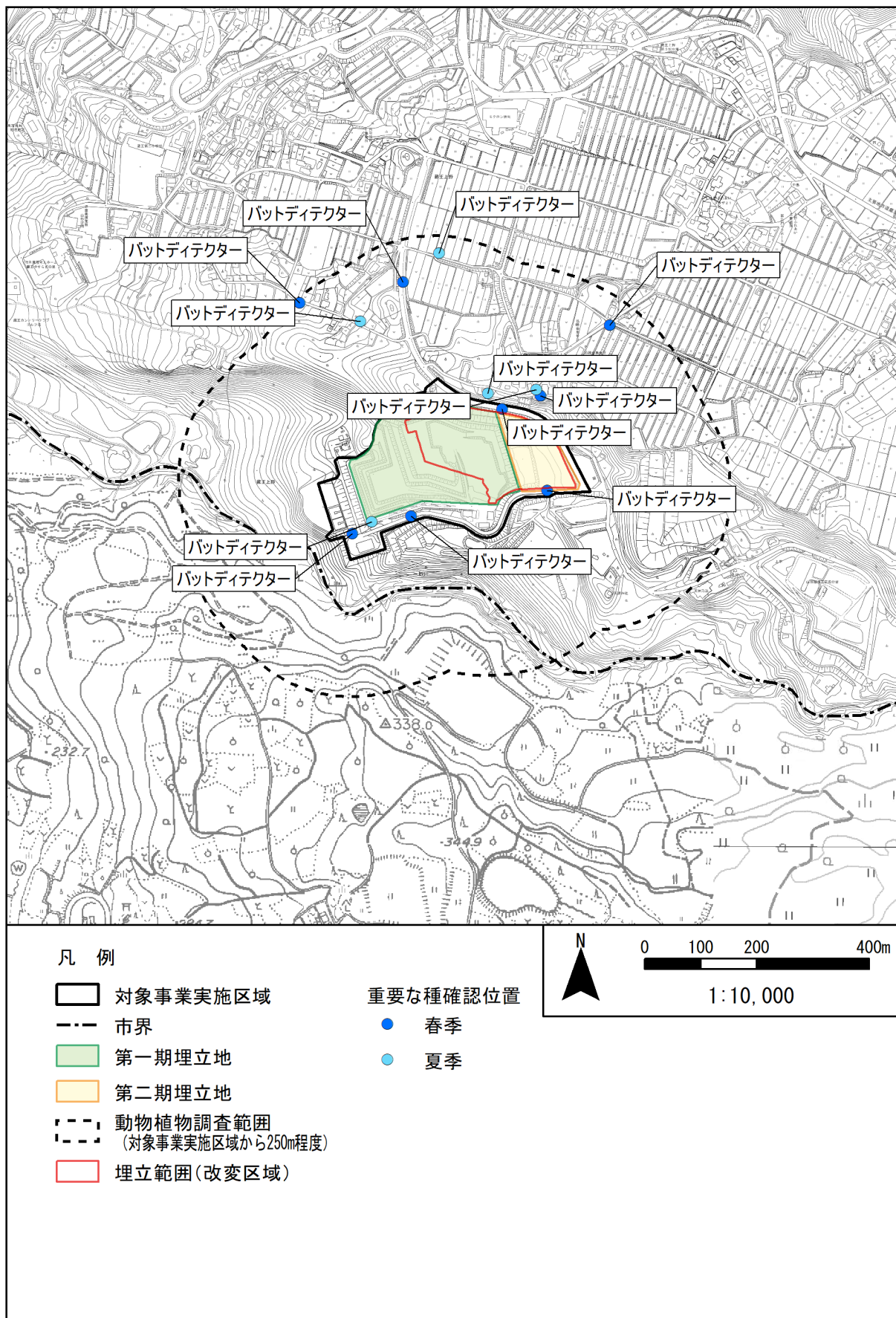


図 10.5-9(3) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (ヒナコウモリ科 2)

表 10.5-30(5) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		カモシカ（ウシ目含む）
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		Ⅰ：特別天然記念物 Ⅱ：－ Ⅲ：－ Ⅳ：－
分布・一般生態		・本州、四国、九州に分布する。 ・低山帯から亜高山帯にかけてのブナ、ミズナラ等が優占する落葉広葉樹林、針広混交林に多く生息する。 ・各種木本類の葉や、広葉草本、ササ類等を選択的に採食し、ため糞をする習性がある。 ・土地への定着性が高く、雌雄とも1年を通じて個体縄張りを形成し、一夫一妻制の傾向が強い。 ・初夏に通常1仔を出産する。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内
		春季調査時に1地点でウシ目の足跡を確認した。確認環境は処分場内の造成地であった。
		対象事業実施区域外
		任意観察調査で、早春季調査時に1地点、秋季調査時に1地点で糞を確認した。 自動撮影調査で、春季調査時に2地点、夏季調査時に3地点、秋季調査時に1地点、冬季調査時に1地点で確認した。確認環境はいずれも処分場周辺の樹林であった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 ・対象事業実施区域内の利用が確認されているため、場内通路において工事関係車両によるロードキルが生じる可能性がある。 以上のことから、生息環境への影響があると予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・対象事業実施区域内の利用が確認されているため、場内通路において廃棄物運搬車両によるロードキルが生じる可能性がある。しかしながら、廃棄物運搬車両の走行台数は現況と同程度であることから、生息環境への影響は変化しないものと予測される。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

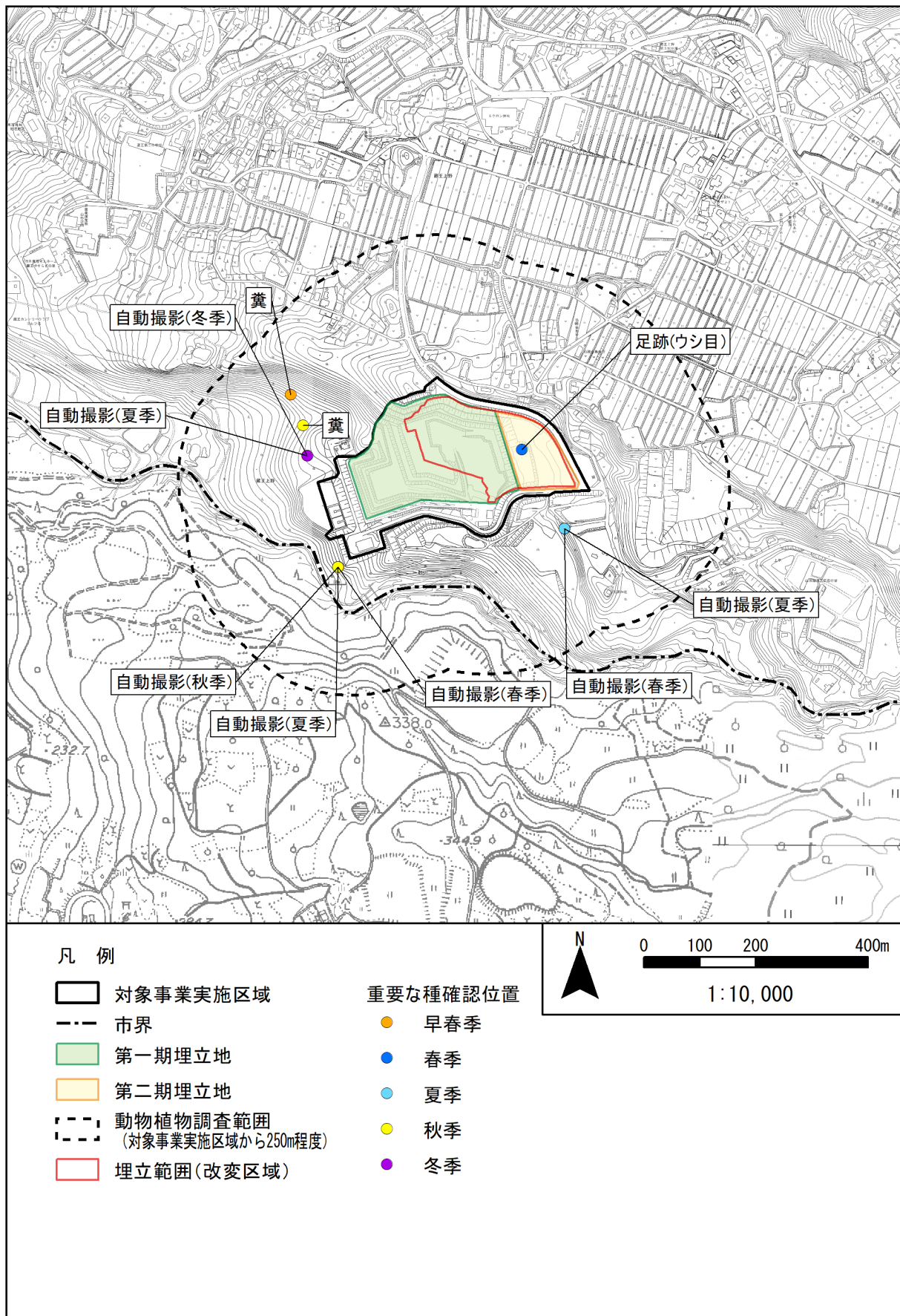


図 10.5-9(4) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（カモシカ（ウシ目含む））

2) 一般鳥類

一般鳥類の重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響の予測結果は、表 10.5-31 及び図 10.5-10 に示すとおりである。

なお、一般鳥類調査で確認された猛禽類のオオタカについては、後述の猛禽類において予測を行った。

表 10.5-31 (1) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ヤマドリ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I：－ II：－ III：－ IV：準絶滅危惧 (NT)
分布・一般生態		・日本特産種。本州、四国、九州に留鳥として普通に生息する。丘陵から標高 1,500m 以下の山地のよく茂った林で見られ、沢沿いの暗い林に多い。 ・地上にある植物の芽、葉、種子のほか、動物では昆虫類、クモ類、多足類、軟体動物などを食べる。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 確認なし。
		対象事業実施区域外 春季調査時に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

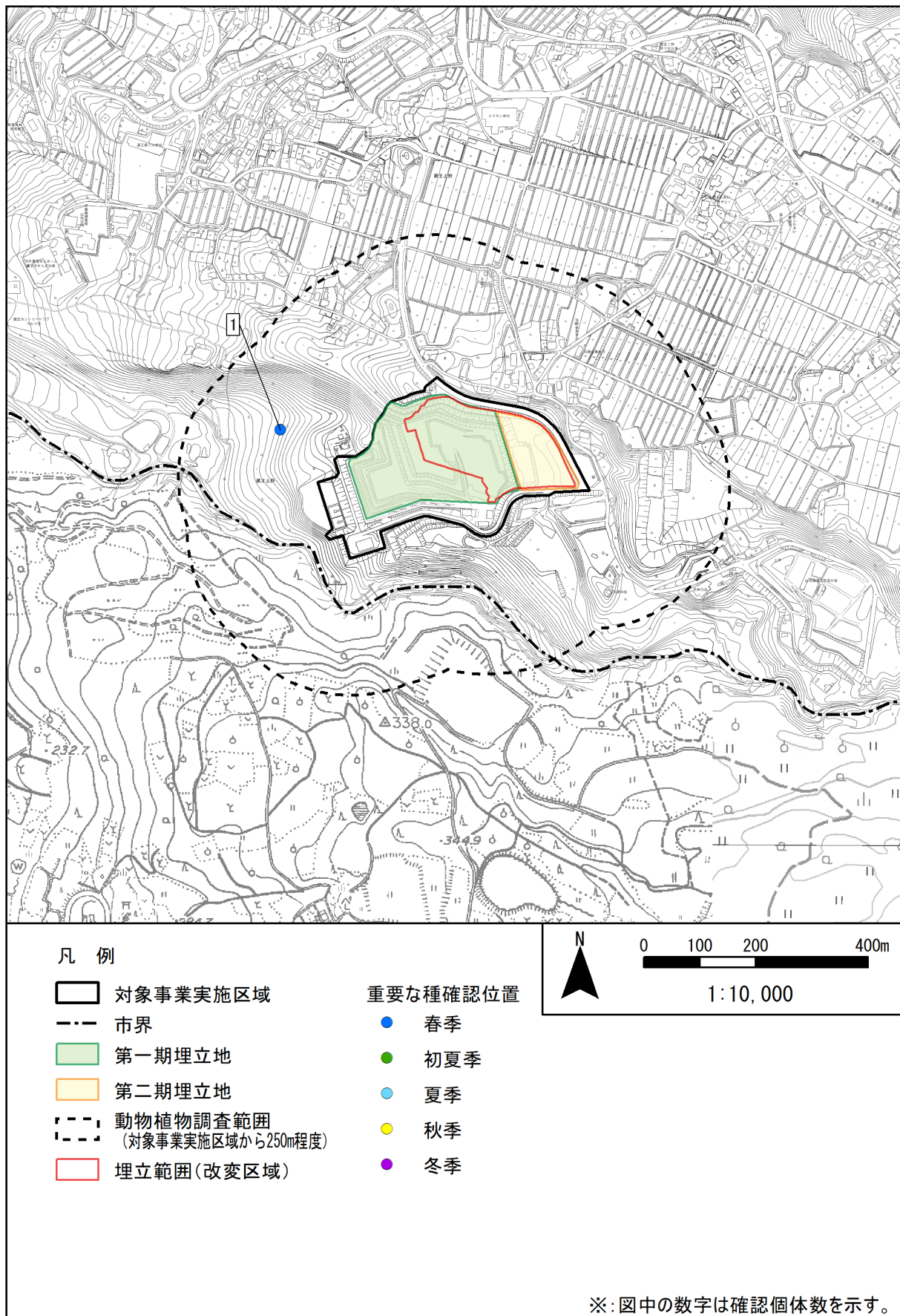


図 10.5-10(1) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（ヤマドリ）

表 10.5-31(2) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		アオバト	
重要な種の選定基準		I : - II : - III : - IV : 準絶滅危惧 (NT)	
重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・繁殖分布は日本に限られる。北海道、本州、四国、九州などで繁殖し、北海道や北日本では夏鳥、他は留鳥。本州中部以南に多い。山地帯の常緑広葉樹林、落葉広葉樹林にすむ。亜高山帯の針広混交林や冷温帯のブナ林には少ない。 ・樹木や草の、実や種子、新芽などを食べ、ドングリのような堅果もむしりとり丸呑みする。	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	夏季調査時に 1 地点で 1 個体、秋季調査時に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

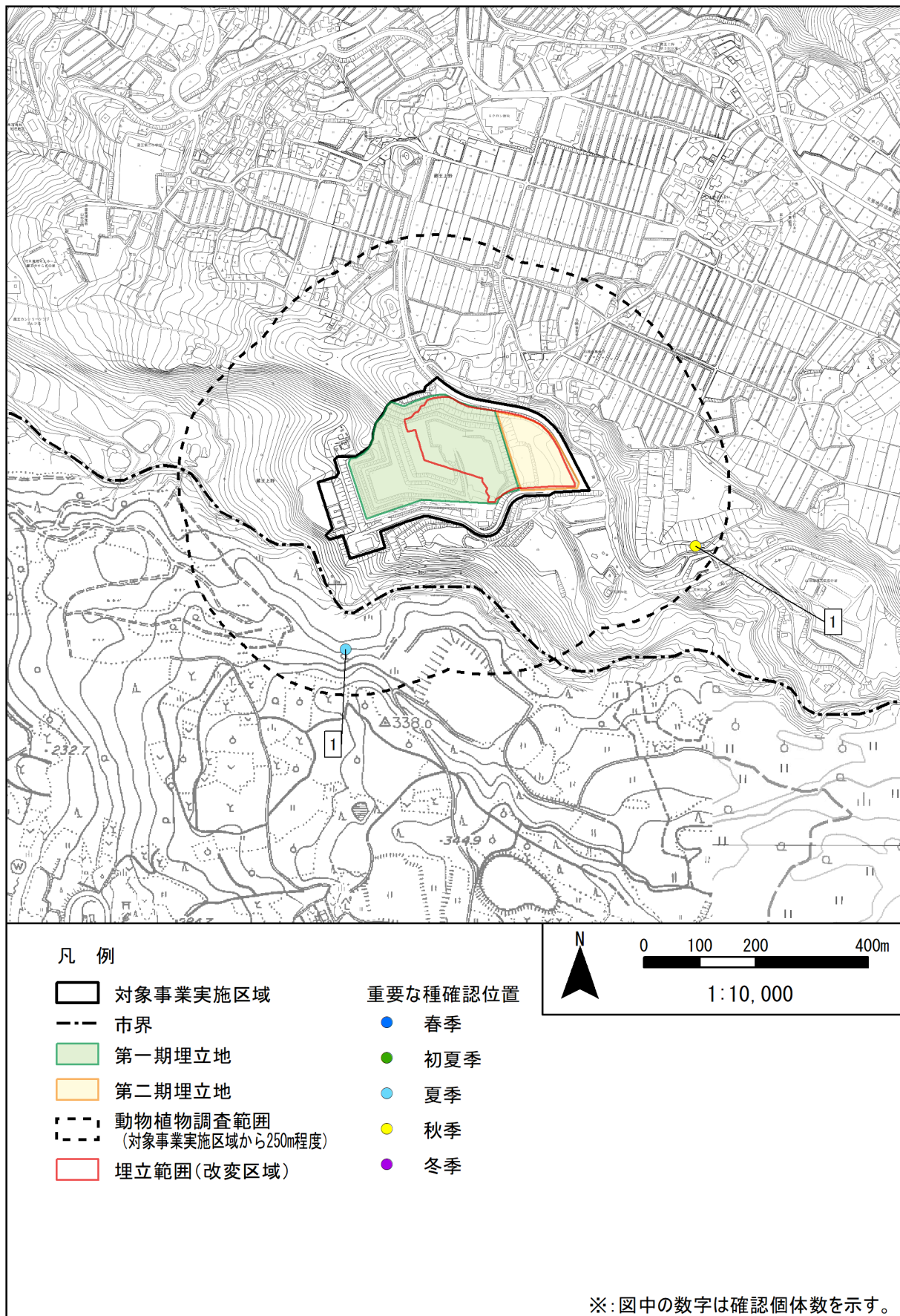


図 10.5-10(2) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（アオバト）

表 10.5-31(3) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ササゴイ	
重要な種の選定基準		I : - II : - III : - IV : 準絶滅危惧 (NT)	
重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・日本には夏鳥として 4 月頃から渡来し、本州から九州の各地で繁殖する。九州南部では冬にもとどまるものがある。現在では著しく数が減っている種である。水田、湖沼、河原、ヨシ原など低地や平地の水辺に生息する。時には海岸でも見られる。 ・水田や河原など見通しの良い場所で魚、カエル、アメリカザリガニ、水生昆虫を食べる。	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	春季調査時に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は河川であった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である河川等の水辺環境は改変されない。 ・工事の実施に伴い発生する濁水は、生息が確認された水域に排水されるが、濁水の流出を防止するため、既存浸出水調整槽へ排水して濁水を適正に処理し水質汚濁を防止する。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である河川等の水辺環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・土地又は工作物の存在・供用に伴い発生する浸出水処理施設の排水は、生息は確認された水域に排水されるが、浸出水処理施設は、現況設備のまま稼働することから、現況から変わらず環境基準を満足すると予測する。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

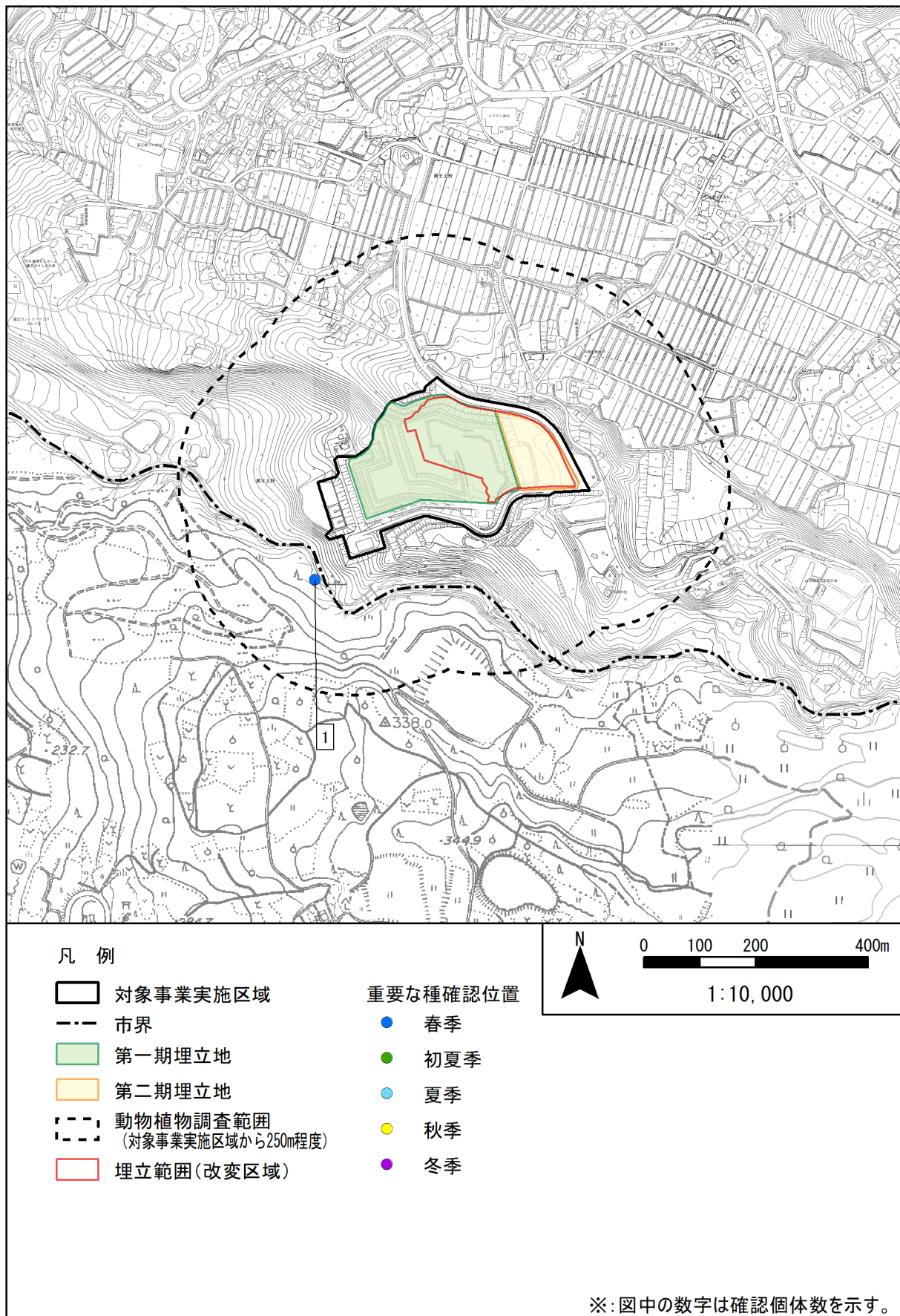


図 10.5-10(3) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（ササゴイ）

表 10.5-31(4) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		コチドリ	
重要な種の選定基準		I : - II : - III : - IV : 準絶滅危惧 (NT)	
重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・日本では北海道、本州、四国、九州などに夏鳥として渡来して繁殖する。渡り期には各地に現れ、九州以南で少数が越冬する。 ・砂泥地の表面にいる昆虫類をくわえとる。 ・河川、埋立地、造成地等の草の少ない砂礫地などに生息する。	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	春季調査時に4地点で5個体確認した。確認環境は造成地であった。造成地で巣（繁殖）が確認された。
		対象事業実施区域外	確認なし。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である造成地環境が約47.5%改変される。 ・繁殖が確認された環境は、第一期埋立地の供用に伴い一時的に出現した裸地環境であり、その人為的な裸地環境を一時的に繁殖場所として利用しているものと考えられる。第二期埋立地の工事の実施に伴い人為的な裸地環境が消失した場合は、別の同様の環境に移動して繁殖を行うものと考えられる。 ・工事の実施に伴う建設機械の稼働により、工事裸地等につくられた繁殖中の巣が改変される可能性がある。 以上のことから、生息環境への影響があると予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である造成地環境の約47.5%で埋立作業が実施される。 ・繁殖が確認された環境は、第一期埋立地の供用に伴い一時的に出現した裸地環境であり、その人為的な裸地環境を一時的に繁殖場所として利用しているものと考えられる。第二期埋立地の埋立作業の実施に伴い人為的な裸地環境が消失した場合は、別の同様の環境に移動して繁殖を行うものと考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

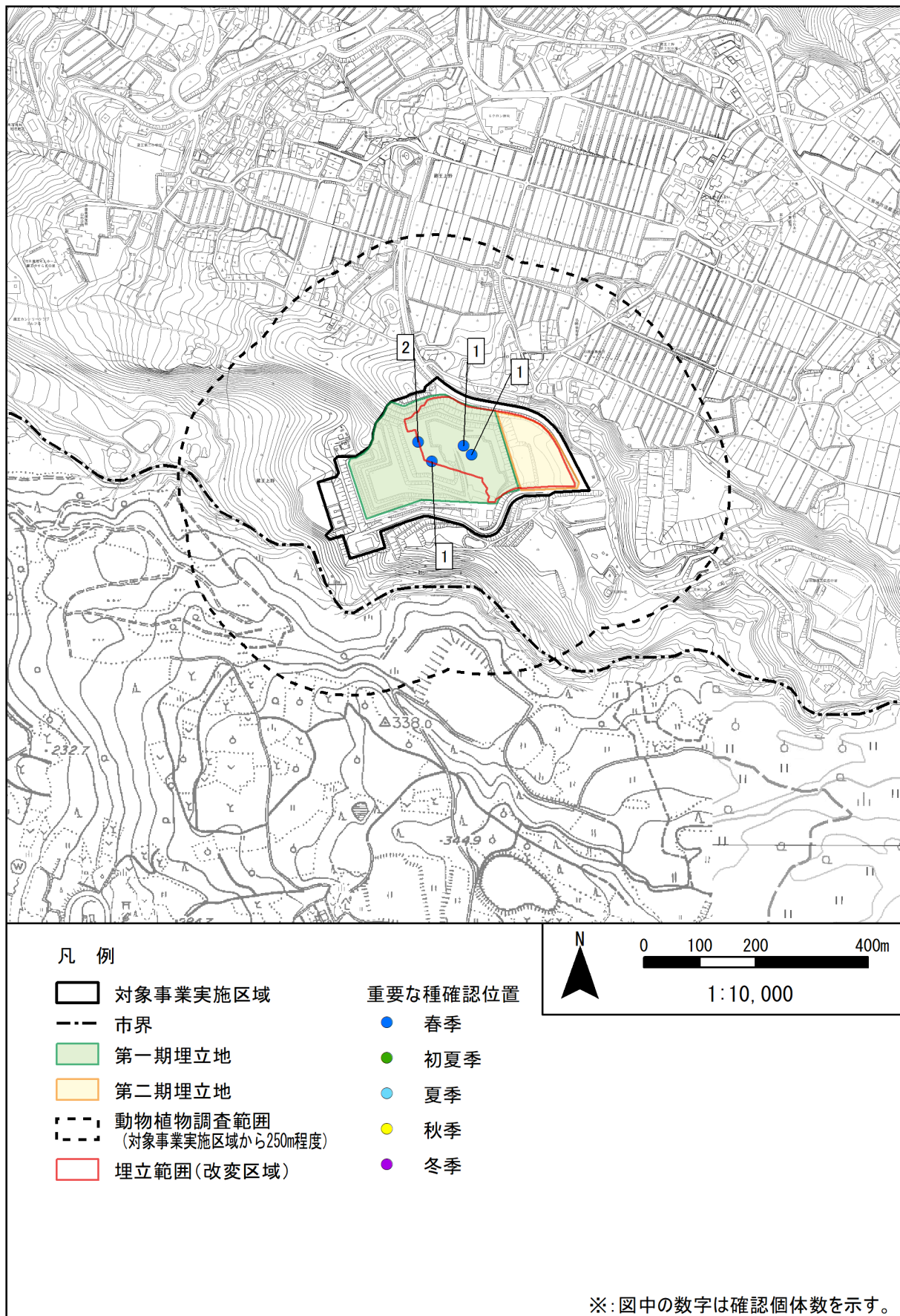


図 10.5-10(4) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (コチドリ)

表 10.5-31(5) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		サンショウクイ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		Ⅰ：－ Ⅱ：－ Ⅲ：絶滅危惧Ⅱ類(VU) Ⅳ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)
分布・一般生態		・日本には夏鳥として平地から山地の明るい林に渡来し、広葉樹林に多い。高い木の頂近くにいることが多い。近年、全国で著しく減少している。 ・樹冠部の葉や小枝が茂る下側で、ホバリングしながら昆虫類やクモをとる。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 確認なし。
		対象事業実施区域外 春季調査時に3地点で3個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

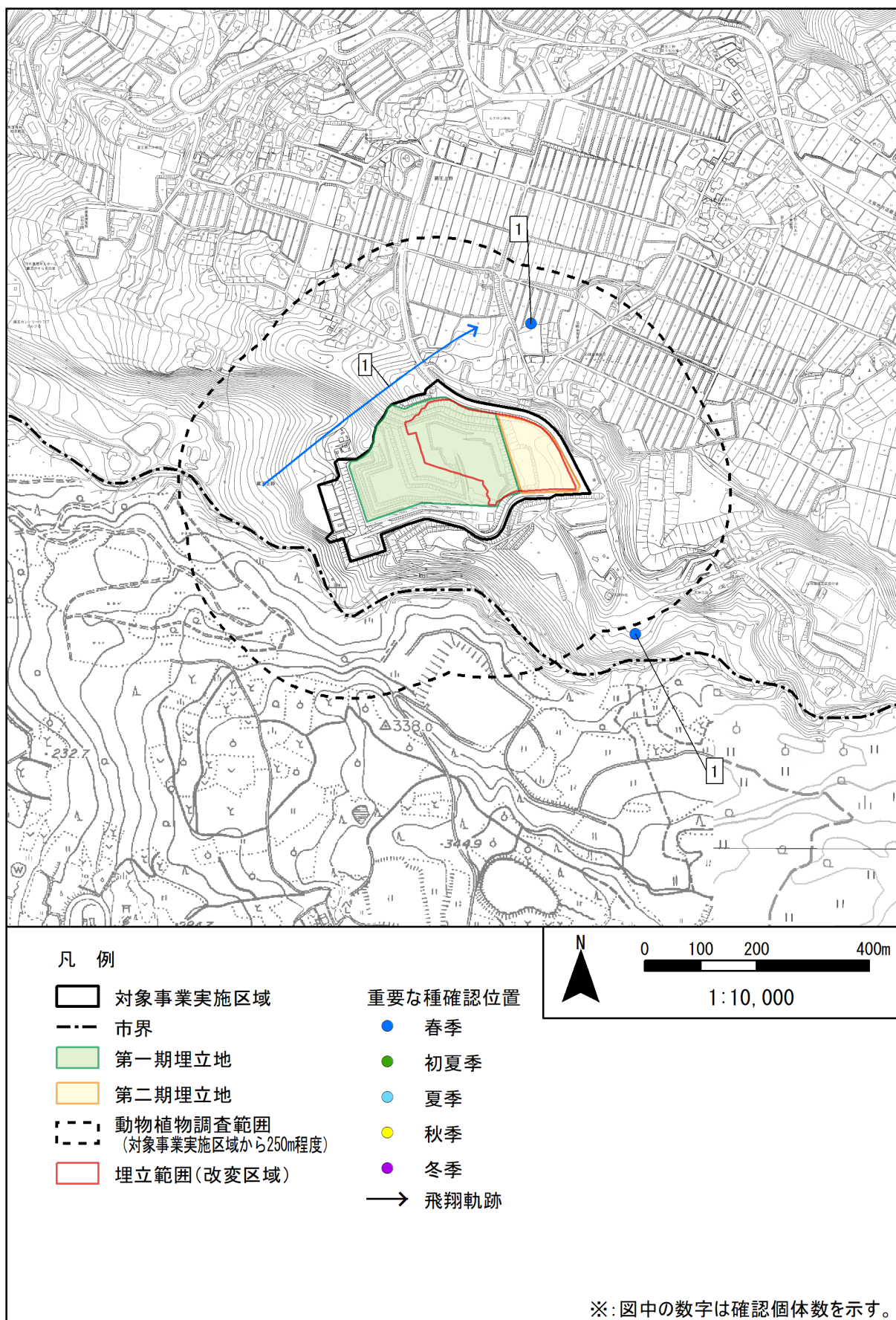


図 10.5-10(5) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (サンショウクイ)

表 10.5-31(6) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		センダイムシクイ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		Ⅰ：－ Ⅱ：－ Ⅲ：－ Ⅳ：準絶滅危惧 (NT)
分布・一般生態		・日本には夏鳥として渡来し、北海道から九州までの各地で繁殖する。低山帯の、低木や藪の多い落葉広葉樹林に好んで生息する。北海道では平地林にも生息するが、本州では傾斜のある林を好み、山地の谷間や沢筋に多い。渡りの時期には平野部でも見られる。地上に降りることはまれ。 ・体を水平にして枝から枝へと移動しながら、葉や枝に付いている昆虫類を捕らえたり、枝から葉の裏側を見上げ、見つけた虫に飛びついたりする。鞘翅類・膜翅類・双翅類などの幼虫や成虫を主食にする。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 確認なし。
		対象事業実施区域外 春季調査時に 5 地点で 10 個体確認した。 確認環境は樹林であった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

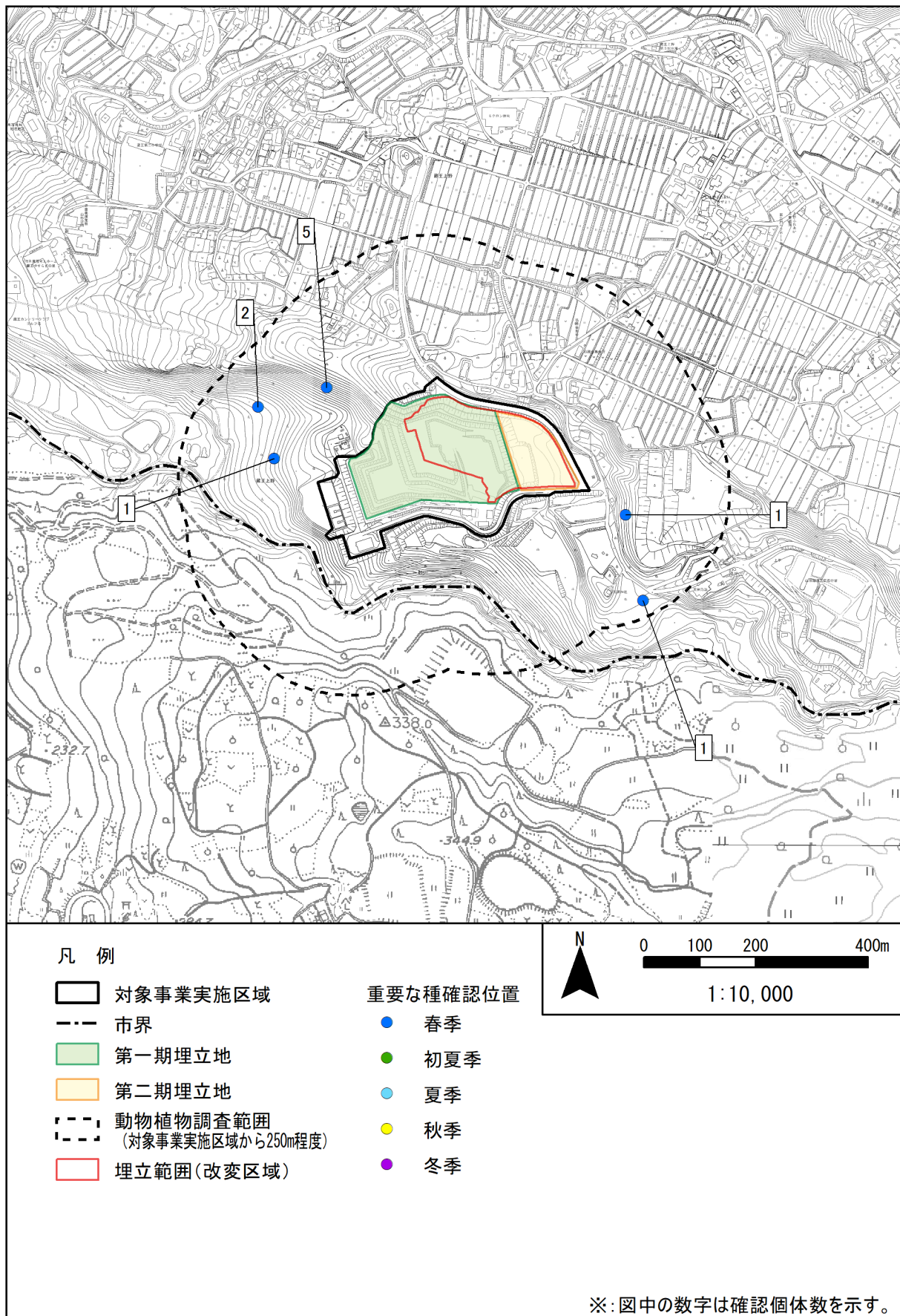


図 10.5-10(6) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（センダイムシクイ）